

一般財団法人 Ruby アソシエーション
2013 年度 第 2 回臨時理事会 議事録

日時：2014 年 1 月 29 日(水) 10:00 ～ 11:30

場所：松江オープンソースラボ（島根県松江市朝日町 478-18 松江テルサ別館 2F）

株式会社セールスフォース・ドットコム（東京都千代田区丸の内 2-7-2 JP タワー12F）

九州工業大学 田中和明研究室(福岡県飯塚市川津 680-4)

理事総数：6 名

出席理事：6 名（松江、東京及び福岡をテレビ会議で結び開催）

（松江）松本行弘（理事長）、井上浩（副理事長）、山根泉

（東京）笹田耕一、橋本明彦

（福岡）田中和明

出席監事：（松江）今岡正一

事務局：（松江）前田修吾（事務局長）、徳永翔二（事務局員）、横田早百合（事務局員）、
杉原健司（支援スタッフ）、福田一斎（支援スタッフ）

定款第 39 条の規定により出席理事から井上浩副理事長を議長として選出し、井上副理事長が議長席につき、当財団の理事現在数 6 名中、定款第 40 条第 1 項及び第 2 項の規定に従い、議長を含め議決に加わることのできる理事全員の出席により定足数を満たしたので本理事会は有効に成立した旨を宣し、テレビ会議システムにより出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認のうえ議事に入った。

冒頭、松本理事長より今期の円滑な財団事業の実施、及び来期の財団事業継続に向け本日の議事進行、協議に期待する旨の挨拶があった。また、2013 年 6 月に就任した山根理事より挨拶があった。

審議事項 1：「今期補正予算について」

定款第 7 条第 1 項に基づき（審議事項 2 以降も同様）、議長の指名により前田事務局長が別添資料 1 によって 2013 年度 1 月補正予算案の説明を行った。

審議の後、議長がこの決議を求め、全員異議なくこれを決議した。

審議事項 2：「来期事業計画案について」

議長の指名により徳永事務局員が別添資料 2 によって今期の事業実施状況の説明を行った。

続いて、議長の指名により前田事務局長が別添資料 3 によって来期事業計画案の説明を行った。

以下、質疑応答。

笹田理事：公募型開発プロジェクトとは別に、Ruby 及び周辺環境の改善を目的に活動している人に財政支援することは可能か。

前田事務局長：活動内容を明らかにされ、必要とする支援をご提案いただければ、検討したい。

笹田理事：来期からの支援も可能か。

前田事務局長：来期事業として加えることができると判断すれば、当初予算で又は年度途中で補正予算での対応も可能である。

笹田理事：Ruby Central との連携はどのようになっているか。

徳永事務局員：財団が非営利団体であるとの資料を提出し、Ruby Central が検討されている段階。具体的な内容は決まっていない。

橋本理事：来期 Ruby 安定版保守事業の委託先について、公募しているがどのような状況か。

前田事務局長：今期は、事前確認公募として特に応募の意思を示すところがなければそれまでの委託先と契約を継続していたが、来期に関しては新たな契約先を公募中である。場合によっては、4 月からの委託は難しいかもしれない。

審議の後、議長がこの決議を求め、全員異議なくこれを決議した。これにより本案を評議員会で協議することとなった。

審議事項 3 : 「来期予算案について」

議長の指名により杉原支援スタッフが別添資料 4 によって来期予算案の説明を行った。

審議の後、議長がこの決議を求め、全員異議なくこれを決議した。これにより本案を評議員会で協議することとなった。

審議事項 4 : 「公益認定申請について」

議長の指名により杉原支援スタッフが公益認定申請の状況についての以下の説明を行った。

「財団設立当初より、公益認定を目指してきたが、公益認定等委員会事務局からは、現行の事業による申請内容は、受益者が一部の者に限られる共益活動ではないかとの見解が示された。若年者教育、地域産業振興等を軸に事業を再構築すれば、公益性を認められる可能性は高まるものの、それでは財団の事業趣旨が変わってしまう。事業趣旨を変えてまで、公益法人にする必要があるとは思えないため、事務局として公益法人化を断念したい。各理事の意見を伺い、この方針を認められれば、評議員会でも意見を伺いたい。」

また、今岡監事からもその主旨をご説明いただいた。

審議の後、議長がこの決議を求め、全員異議なくこれを決議した。これにより本案を評議員会で協議することとなった。

審議事項 5 : 「補欠評議員候補の推薦について」

議長の指名により杉原支援スタッフが以下の説明を行った。

「正村勉氏が昨年 12 月末で評議員を退任されたため、この補欠評議員候補に石川明氏を事務局として提案したい。」

審議の後、議長がこの決議を求め、全員異議なくこれを決議した。これにより石川明氏を評議員候補として評議員選定委員会に推薦し、審議いただくことになった。

報告事項 : 「情報発信事業」ライター採用について

徳永事務局員により、別添資料 5 によって利用事例のライター採用の報告を行った。

その他

以下、質疑応答。

笹田理事 : 「事業実施状況」の RubyWorld Conference の来場者数については、正確な数字なのか。

また、この情報は正式な数字として公表してもよいのか。

杉原支援スタッフ : 正確な数字である。公表しても構わない。

財団のサイト、並びに RubyWorldConferece の公式サイトでも公表する。

笹田理事 : 公募型開発プロジェクトで採択されたものに、発表の機会があったらよいのでは。

井上議長 : 事務局で検討して欲しい。

橋本理事 : 関係機関との連携の部分に、大阪の団体を記載してはどうか。

杉原支援スタッフ : Ruby ビジネス推進協議会を記載する。

以上この議事録が正確であることを証するため、定款第43条の規定により、代表理事理事長（松本行弘）と出席監事（今岡正一）は、次に記名押印する。

2014年1月29日

上記の通り相違ありません。

一般財団法人Rubyアソシエーション

代表理事理事長 松本 行弘



監事 今岡 正一



別添資料1

2013年度1月 一般財団法人Rubyアソシエーション 補正予算案 2014.1.29 単位:千円

	2013年度6月補正予算①	2013年度1月補正予算案②	②-①
1 売上高			
1) Ruby技術者認定試験	15,600	16,186	586
2) 事業者認定事業	2,250	2,200	-50
3) その他事業収入	8,114	7,519	-595
小計	25,964	25,905	-59
2 特別利益(協賛金、寄附金)			
1) 協賛会員	13,300	13,900	600
2) 寄附金	210	10	-200
3) その他	0	4,573	4,573
小計	13,510	18,483	4,973
3 雑収入			
1) 預金利息 等	2	2	0
4 売上原価			
1) Ruby技術者認定試験	6,309	8,682	2,373
2) 事業者認定事業	540	200	-340
3) その他	0	0	0
小計	6,849	8,882	2,033
5 その他、事業費用			
1) 公募型開発プロジェクト	1,500	1,500	0
2) Ruby安定版の保守業務委託	3,400	3,277	-123
3) Web活用(情報発信事業)	725	486	-239
4) RubyWorld Conference開催	2,300	1,850	-450
5) ビジネスセミナー開催 等	2,660	1,745	-915
6) 標準化維持	1,000	662	-338
小計	11,585	9,520	-2,065
6 役員報酬			
監事報酬	1,200	900	-300
小計	1,200	900	-300
7 販売費及び一般管理費			
1) 職員人件費	7,000	6,477	-523
2) 賃借料(事務所+駐車場)	760	866	106
3) 旅費交通費(出張費)	1,875	1,782	-93
4) 通信運搬費(電話代、郵便代)	50	54	4
5) 消耗品費(事務用品他)	300	233	-67
6) 会議費	20	20	0
7) 使用料	0	0	0
8) 租税公課(固定資産税、印紙代)	100	54	-46
9) 手数料	150	104	-46
10) 委託費	800	133	-667
11) 報償費	0	0	0
※諸会費		0	0
※雑費	1,000	41	-959
小計	12,055	9,764	-2,291
8 総収入	39,476	44,390	4,914
9 総支出	31,689	29,063	-2,626
10 税引前当期純利益	7,787	15,327	7,540
11 法人税、住民税及び事業税	0	0	0
12 当期純利益	7,787	15,327	7,540
13 利益剰余金	18,281	25,821	7,540
※協賛会員数			
Platinum Sponsor (50万円)	12	12	0
Gold Sponsor (20万円)	17	19	2
Silver Sponsor (10万円)	39	41	2

2013 年度（第 3 事業年度）

「事業実施状況」

一般財団法人 Ruby アソシエーション

1 事業の概要

Ruby は昨年 2 月にはその開発から 20 年を迎えるとともに、5 年ぶりのメジャーバージョンとして Ruby2.0 がリリースされ、Ruby は新たな時代へと突入しました。

2013 年度は、こうした背景を元にした Ruby のビジネス利用の拡がりとともに、一般財団法人 Ruby アソシエーション（以下、「当財団」と言う。）への期待も高まった一年でした。当財団は、その目的である Ruby 関連のプロジェクトやコミュニティ、ビジネスの関係をより良好なものとし（「Ruby Eco System」の構築）、ビジネス分野における Ruby の利用に関する諸課題の解決に取り組みました。

本書では当財団の 2013 年度の実施実施状況について報告します。

2 体制及びその変更

1) 評議員

2013 年度評議員

- ・ 出田 健二 (株)まちづくり三鷹 経営事業部企画事業グループマネージャ
 - ・ 及川 喜之 (株)セールスフォース・ドットコム CTO
 - ・ 大場 寧子 (株)万葉 代表取締役社長
 - ・ 後藤 裕蔵 (株)ネットワーク応用通信研究所 取締役
 - ・ 最首 英裕 (株)グルーヴノーツ 代表取締役社長
 - ・ 正村 勉 (株)日立ソリューションズ
統括技術本部 副本部長、技術開発本部 本部長、Ruby センタ長
 - ・ 立久井 正和 (株)インターネットイニシアティブ
サービス本部 プラットフォームサービス部長
 - ・ 中島 宏 (株)DTS IT インテグレーション事業本部 IT プラットフォーム部 部長
 - ・ 羽田 昭裕 日本ユニシス(株) 総合技術研究所 所長
 - ・ 平松 知江子 (株)富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ
生産革新技术センター長代理 兼 OSS ビジネス推進部長
 - ・ 森 正弥 (株)楽天 執行役員 兼 楽天技術研究所 所長
 - ・ 吉岡 宏 (株)テクノプロジェクト 代表取締役社長
 - ・ 吉田 正敏 富士通(株) プラットフォーム技術本部 チーフストラテジスト
- ※ 2013 年 12 月の正村氏の辞任に伴い、石川氏（(株)日立ソリューションズ）が評議員に就任を予定。

2) 理事

- ・ 代表理事 理事長 松本 行弘
 - ・ 副理事長 井上 浩
 - ・ 理事 山根 泉
橋本 明彦
田中 和明
笹田 耕一
- ※2013 年 6 月の澤田盛繁理事（当時）の辞任により山根氏が理事に就任。

3) 監事、顧問及び事務局

- ・ 監 事 今岡 正一（公認会計士）
- ・ 顧 問 松浦 正敬 松江市長、溝口 善兵衛 島根県知事
- ・ 事務局 前田修吾（事務局長）が事務局業務全般を統括し、常勤スタッフ 2 名の他、松江市、島根県による人的支援によって運営しました。その他、事例収集のため外部のライターと、規格文書の保守および改訂の作業のため外部の専門家と契約を行っています。

4) 評議員選定委員会

- ・ 委員長 立久井 正和（評議員）
- ・ 委 員 今岡 正一（監事）、横田 早百合（事務局員）、田代 秀一（外部委員）、高橋 征義（外部委員）

3 実施事業

1) 公募型開発プロジェクト

Ruby 及び周辺環境の改善を目的に Ruby 処理系、ライブラリ及びフレームワークに関連する開発プロジェクト（既存のソフトウェアを改良するプロジェクトを含む）を公募し、グラント委員会で選考の結果、以下 3 件のプロジェクトを採択しました。

いずれも 2014 年 3 月 31 日までに開発を終え、その成果を公開します。

- ・ 公募期間：2013 年 9 月 5 日 ～ 10 月 7 日
- ・ 応募件数：8 件
- ・ 採択件数：3 件

①採択者：Daniel Berger	プロジェクト：Win32Utils Support
Win32Utils は Windows オペレーティングシステム向けに一連の Ruby ライブラリーを提供するプロジェクトです。このプロジェクトは既にいくつか存在している Win32API ライブラリーを FFI や OLE に移植することをゴールとしています。これによって、JRuby のような他の処理系との互換性を向上させ、コードをより堅牢なものにします。	
②採択者：Laura Garcia	プロジェクト：Conductor
Creosote プロジェクトは Ruby エコシステムで利用可能ないくつかの強力な数学ライブラリーを開発します。現在は、数学的 GMP、MPFR、Msieve ライブラリーの Ruby バインディング(C拡張)をメンテナンスしています。今日、これらのライブラリーは別個の gem で提供されており、お互いのライブラリーの存在を認識しにくくなっています。これらのライブラリーを含めて、より多くの数学ライブラリーを含む Creosote プロジェクトを成長されることを目的としています。	
②採択者：Kouji Takao	プロジェクト：Smalruby - smalruby-editor
Smalruby (すもうるびー) とは、小学校高学年から中学生向けの Ruby 学習環境を提供するためのプロジェクトです。本プロジェクトのゴールは Scratch(http://scratch.mit.edu/) のようなソフトウェアやコミュニティサイトを Ruby で実現することです。Scratch は小学生でも使える教育用のプログラミング環境として実績があります。本プロジェクトは次のソフトウェア、ハードウェア、ドキュメントから構成されます。2013 年度助成金事業ではこのうち smalruby-editor を開発します。	

2) Ruby安定版保守事業

ユーザが安心して Ruby を利用できる環境を構築するため、Ruby 安定版の保守事業を実施しています。事業仕様策定後に業務を外部機関に委託することと、委託先の選定に際し公募を行った結果、株式会社 TOUA に決定いたしました。委託期間 2014 年 3 月 31 日までです。

3) Rubyに関する情報発信事業

(1) Webでの情報発信

協賛会員をはじめ、Ruby をビジネス利用する企業に利用事例作成編集の担当スタッフが当該企業担当者に直接面談し、概要情報と詳細情報の作成を行いました。これらの情報は、利用時の背景事情、適用されたビジネス・システム分野やその特性など、利用企業のみならずエンドユーザ(企業や個人の場合あり)の損益にも深く関わる場合があることから、公開前に利用企業等による内容確認を実施し(その際にエンドユーザに了解を得ることもあった)、関係者合意の上で財団ホームページに掲載しました。2013 年度は新たに 5 件の利用事例を紹介しました。

2013 年度 新規掲載企業	テーマ
株式会社アールラーニング	エンジニア達の思いから始まった勤怠管理システム「新月-SHINGETU」
株式会社 DTS	Ruby とクラウドサービスで実現した EC 決済共通基盤
株式会社クレオネットワークス	クラウド型 BPM ツール「BizOne/BizPlatform」シリーズとして提供
株式会社日立ソリューションズ	Ruby の高い生産性で実現したリメディアル教育システム

(2) RubyWorld Conferenceの開催

2013 年 11 月 21 日(木)、22 日(金)、島根県立産業交流会館「くにびきメッセ」(島根県松江市)にて 5 回目となる「RubyWorld Conference 2013」を開催しました。主催は、RubyWorld Conference 開催実行委員会(構成機関:当財団、島根県、松江市、島根大学、松江高専、ジェトロ松江、しまね産業振興財団、島根県情報産業協会、しまね OSS 協議会、経済産業省中国経済産業局)、その他、多くの機関の後援、協賛をいただき実施しました。

今回の国際会議では、Ruby に関するビジネス利用事例や、最新技術の情報、開発者教育の状況などを紹介する様々なセッションを通じて、Ruby がより多くの領域に普及していくことを目指し、国内外 16 名が講演し、来場者数は 2 日間で延べ 901 名(詳しくは下記を参照)を数えました。

オープニング・セレモニーで、まつもと実行委員長、溝口善兵衛島根県知事、松浦正敬松江市長の挨拶に続き、経済産業省商務情報政策局 小池雅行 地域情報化人材育成推進室長に来賓ご挨拶をいただきました。

引き続き基調講演では、Ruby の開発者まつもと委員長が「Aiming the Moving Target」と題し講演。また、2 日目の基調講演では、GitHub Inc.の共同創業者兼最高経営責任者(CEO)、Tom Preston-Werner 氏が「The Internet

Axiom : Escaping the Tyranny of Time and Space」と題して、ビジネスにおけるインターネットの有り方についてご講演いただきました。

初日の午後は、新たに Ruby コミュニティに貢献した方の活動を表彰する、「Ruby コミュニティの新人賞」として、今年からスタートした Ruby Prize 受賞者の発表と表彰が行われました。

その他、国内外の Ruby の技術者、企業関係者が講演し Ruby の更なる普及・発展に向けて活発に議論がなされました。

なお、クロージング・セレモニーでは、井上浩 実行委員会副委員長が、2日間の議論を振り返るとともに、来年の Conference の開催意向を表明し、閉幕しました。

●来場者について

2日間延べ 901名（11月21日 491名、11月22日 410名）

来場実数 619名（県内 231名、県外 380名、海外 8名）

- ・IT企業関係者 392名（県内 101名、県外 285名、海外 6名）
- ・その他企業関係者 61名（県内 39名、県外 22名）
- ・行政関係者 88名（県内 61名、県外 27名）
- ・研究教育機関関係者 33名（県内 16名、県外 17名）
- ・一般（所属なし） 29名（県内 12名、県外 17名）
- ・講演者 16名（県内 2名、県外 12名、海外 2名）

※Ruby Prize 含む

●講演者について

- ・国内 14名（企業関係者 14名）
- ・海外 2名（アメリカ 2名、いずれも企業関係者 2名）

（3）Ruby ビジネスセミナー

当財団の単独主催、又は関係機関との共催、協力を得てビジネスセミナーを4回開催致しました。これらのセミナーでは、Ruby の利用状況と今後のビジネストレンドをはじめ、開発現場で必要とされる技術情報など、開催地の状況に応じた話題提供をすることで参加者のニーズに合わせたセミナー機会を提供しました。また、セミナー後の質疑応答やセミナー後の意見交換の場など、Web 上だけではない「リアルなビジネス交流」の機会を提供しました。

各セミナーでは参加者にアンケートを実施し、情報発信事業に対する評価と当財団への要望も意見集約し、今後の事業内容の検討にも活用しています。

開催時期、会場	開催テーマ	来場者数 (名)	備考
2013年7月、東京	PaaS	約 100名	IIJ 開催協力
2013年11月、東京	Ruby、Cloudビジネス	約 80名	単独開催
2013年12月、東京	技術者向けセミナー	約 80名	単独開催
2014年1月、大阪	エンタープライズ Ruby	約 90名	Ruby ビジネス推進協議 会開催協力

4) Ruby技術者認定試験事業

2013年度も、Rubyベースのシステムを設計、開発、運用するエンジニア、Rubyでシステム提案を行うコンサルタント、Rubyを教える講師などを対象とした認定試験制度を

実施しました。

認定者は、Ruby技術者としての技術力を公正に評価され、高い水準のRubyによるシステム開発能力を持つことを認定されます。認定によりRubyベースでシステム開発を行ううえで必要な基礎的な知識と応用力をもつことをアピールすることができます。

試験の合格者は、当財団が「Ruby Association Certified Ruby Programmer」として認定します。現在は、国内(試験区分：Silver、Gold)、海外(試験区分：Silver)で実施しており、2012年10月より当財団が直営実施(CBT受験環境、オペレーションはプロメトリック社に委託)しており、安心して受験いただける環境を提供しています。

5) 事業者認定事業

従来から実施している認定システムインテグレータプログラム(Rubyの高い技術力を持った企業を認定)に加えて、2012年10月から認定教育機関プログラム(Rubyの教育をおこなう高い技術を持った企業を認定)、認定サポート事業者プログラム(Rubyのサポートサービスを提供する高い技術を持った企業を認定)、及び認定クラウドサービス事業者プログラム(Rubyアプリケーションの運用に適したクラウドサービス(IaaS、PaaS)をおこなう高い技術を持った企業を認定)の各プログラムを実施しています。2013年12月31日時点での認定企業数は以下のとおりです。

認定種別	Gold	Silver
認定システムインテグレータプログラム	18(15)	58(55)
認定教育機関プログラム	3(2)	—
認定サポート事業者プログラム	2(2)	—
認定クラウドサービス事業者プログラム	3(2)	1(1)

※()内は前年度数

6) 協賛会員事業

・会員資格

法人、任意団体及び個人

・会員種別、会費

年会費 1口 10万円(4月を開始月とします)

①Platinum Sponsor 5口以上(50万円以上)

②Gold Sponsor 2口以上(20万円以上)

③Silver Sponsor 1口以上(10万円以上)

2013年12月31日時点での協賛会員数は、以下のとおりです。

Platinum : 年間5口以上	Gold : 年間2口以上	Silver : 年間1口以上
12(9)	19(17)	41(30)

一般財団法人 Ruby アソシエーション
「2014年度 事業計画書」 (案)

2014年4月1日から

2015年3月31日まで

2014年3月31日

一般財団法人 Ruby アソシエーション

目次

はじめに	2
1 組織体制	2
1) 評議員	
2) 理事	
3) スタッフ	
2 実施事業	
1) Ruby 及びその周辺技術の開発支援事業	2
2) 情報発信事業	3
3) Ruby 技術者認定試験事業	3
4) 事業者認定事業	4
5) 標準維持事業	4
6) 協賛会員事業	4
7) 寄付事業	5
3 関係機関との連携	4
1) 松江市、島根県	
2) 日本 OSS 推進フォーラム	
3) その他、関係機関	
4 その他関係資料	5

はじめに

一般財団法人 Ruby アソシエーション（以下、「当財団」という。）は、Ruby の普及、発展と、ビジネス利用の拡大を目的として、2013 年度は、協賛会員などの支援のもと、公募型開発支援プロジェクト、安定版の保守事業、情報発信事業、技術者認定試験事業、並びに事業者認定事業に取り組んで参りました。

当財団を支援する協賛会員も順調に増えるなど、持続可能な産業循環である「Ruby Eco System」が確実に広がっています。

この「Ruby Eco System」をより強固なものにするために、当財団は、Ruby に関係する開発コミュニティ、企業及び支援機関の良好な関係を築き、Ruby を利用される多くの皆様の発展に寄与できるよう、2014 年度も様々な事業に取り組みます。

1 組織体制

1) 評議員

引き続き評議員 13 名の体制で、法律、定款の定めに従って財団運営に携わります。

2) 理事

引き続き理事 6 名の体制で、法律、定款の定めに従って財団運営に携わります。

3) スタッフ

常勤スタッフ 2 名の体制を継続致します。その他、必要に応じて非常勤スタッフを活用するとともに、評議員輩出企業及び松江市、島根県による人的支援によって運営します。

2 実施事業

1) Ruby 及びその周辺技術の開発支援事業

(1) 公募型開発プロジェクト

Ruby 及び周辺環境の改善を目的に Ruby 処理系、ライブラリ及びフレームワークに関連する開発プロジェクト（既存のソフトウェアを改良するプロジェクトを含む）に対し、助成金を交付します。

(2) Ruby 安定版保守事業

Ruby を安心して利用できる環境の提供と、開発コミュニティが Ruby の新たな機能開発に集中できる環境づくりを目的に、Ruby 処理系の保守を行います。

2) 情報発信事業

(1) Web 活用

①利用事例の紹介

これまで知られていなかった Ruby の利用事例を発掘し、充実した事例紹介の提供に努めます。この事例紹介では、日本 OSS 推進フォーラムなど関係機関と連携し、取り組みます。

②技術情報の紹介

現在提供する「Ruby の導入から開発・運用に至るまでに必要とされる一連の情報」の精度向上と、関係技術のバージョンアップなどにも対応し続けることでの提供情報の充実に努めます。

(2) RubyWorld Conference 2014

2014 年 11 月 13 日（木）、14 日（金）に島根県松江市にて開催し、当財団を中心に松江市、島根県、島根大学などで構成する RubyWorld Conference 開催実行委員会

によって準備、運営します。従来同様に「Ruby Eco System（Rubyの持続可能な生態系）」をテーマに、国内外から講演者を招聘、及び発表者を一般公募し、Rubyの先進的な利用事例、最新の技術動向などの様々な情報を発信します。

(3) Ruby Prize

RubyWorld Conference2013 で実施した RubyPrize を 2014 年度も引き続き開催することを松江市等と検討いたします。

(4) ビジネスセミナー

Ruby ビジネスの中心地である東京、大阪、島根、広島、福岡などで価値ある情報を提供するビジネスセミナーを開催します。2014 年度も 5 回程度の開催を予定します。

なお、当財団による単独開催のほか、支援企業及び関係機関と連携して開催する場合があります。

3) Ruby 技術者認定試験事業

Ruby ベースのシステムを設計、開発、運用するエンジニア、Ruby でシステム提案を行うコンサルタント、Ruby を教える講師などを対象とした認定試験を継続して実施します。試験の合格者は、Ruby 技術者としての技術力を公正に評価され、高い水準の Ruby によるシステム開発能力を有する「Ruby Association Certified Ruby Programmer Gold」、又は「同 Silver」として認定します。Ruby のバージョンアップに対応するために既存の 1.8.7 から 2.1 に対応した試験を本事業年度にリリース致します。

4) 事業者認定事業

各プログラムにて認定された事業者、教育機関は、質の高い Ruby に関連したサービスを提供する者として当財団のホームページなどを通じて紹介します。

(1) Ruby アソシエーション認定システムインテグレータプログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold 、又は Silver の認定技術者が正社員として 5 名以上所属する事業者を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified System Integrator Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

(2) Ruby アソシエーション認定教育機関プログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold 、又は Silver の認定技術者が正社員として 2 名以上所属し、教材として「Ruby 公式資格教科書 Ruby 技術者認定試験 Silver/Gold 対応」を採用するか、同程度の内容を含むカリキュラムで、年間 2 回以上講習会などの教育を実施する教育機関を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified Educational Institution Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

(3) Ruby アソシエーション認定サポート事業者プログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold 、又は Silver の認定技術者が正社員として 2 名以上所属し、Ruby のサポートサービスを提供する事業者を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified Support Provider Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

(4) Ruby アソシエーション認定クラウドサービス事業者プログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 2 名以上所属し、ユーザが登録したアプリケーションを ISO/IEC 30170 に適合する処理系上で動作させることができるサービスを提供している事業者を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified Cloud Service Provider Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

5) 標準維持事業

Ruby の言語仕様は、2012 年春、国際規格 (ISO/IEC 30170) に承認されました。当財団では、規格文書の保守及び改訂作業を行います。

6) 協賛会員事業

当財団では、Ruby の普及、発展を目指す事業に賛同し、支援いただける会員を募集することで財政基盤の安定化を図ります。募集対象は、法人、任意団体及び個人であり、支援いただく口数に応じて 3 区分を設けています (年会費：1 口 10 万円、4 月を開始月とします)。

協賛会員区分

- | | |
|----------------------|-----------------|
| (1) Platinum Sponsor | 5 口以上 (50 万円以上) |
| (2) Gold Sponsor | 2 口以上 (20 万円以上) |
| (3) Silver Sponsor | 1 口以上 (10 万円以上) |

2014 年度は、Platinum Sponsor として 12 社、Gold Sponsor として 22 社、また、Silver Sponsor として 50 社のご賛同を見込んでいます。

当財団では、ホームページ、メーリングリスト、またビジネスセミナー等を通じて活動趣旨に賛同いただけるよう呼びかけます。

7) 寄付事業

上述の協賛会員事業のほか、当財団の事業に賛同、支援いただける方に向けて寄付を募集いたします。当財団では、ホームページ、メーリングリスト、またビジネスセミナー等を通じて活動趣旨に賛同いただけるよう呼びかけます。

3 関係機関との連携

当財団は、その目的の達成に向けて関係機関との連携を促進します。

1) 松江市、島根県

当財団は活動の拠点 (主たる事務所) を島根県松江市に置いています。これまでも当財団の活動に賛同、支援いただいた松江市、島根県とは、一層連携を緊密にします。情報発信事業をはじめとした諸事業のみならず当財団の運営面においても支援いただくことで、充実した財団事業に取り組みます。

2) 日本 OSS 推進フォーラム

これまで同様に 2014 年度も同フォーラムの情報発信事業 (特に利用事例の公開) と連携した取り組みを進めます。

3) その他、関係機関

Ruby への取り組みを進める機関との連携を進めることは、当財団の目的の実現に向けて重要な課題です。特に以下の機関との連携、共同事業を検討します。

- ① 一般社団法人 日本 Ruby の会
- ② 福岡 Ruby・コンテンツビジネス振興会議
- ③ NPO 法人 軽量 Ruby フォーラム

④その他、国内外の機関

4 その他関係資料

別添に、2014年度予算を掲載します。

別添資料4

2014年度 一般財団法人Rubyアソシエーション 予算案 2014.1.29 単位:千円

	2013年度 決算見込①	2014年度 予算案②	②-①
1 売上高			
1) Ruby技術者認定試験	16,186	15,120	-1,066
2) 事業者認定事業	2,200	2,200	0
3) その他事業収入	7,519	1,242	-6,277
小計	25,905	18,562	-7,343
2 特別利益(協賛金、寄附金)			
1) 協賛会員	13,900	15,400	1,500
2) 寄附金	10	0	-10
3) その他	4,573	0	-4,573
小計	18,483	15,400	-3,083
3 雑収入			
1) 預金利息 等	2	2	0
4 売上原価			
1) Ruby技術者認定試験	8,682	7,720	-962
2) 事業者認定事業	200	540	340
3) その他	0	0	0
小計	8,882	8,260	-622
5 その他、事業費用			
1) 公募型開発プロジェクト	1,500	1,500	0
2) Ruby安定版の保守業務委託	3,277	3,600	323
3) Web活用(情報発信事業)	486	900	414
4) RubyWorld Conference開催	1,850	2,300	450
5) ビジネスセミナー開催 等	1,745	975	-770
6) 標準化維持	662	1,000	338
小計	9,520	10,275	755
6 役員報酬			
監事報酬	900	600	-300
小計	900	600	-300
7 販売費及び一般管理費			
1) 職員人件費	6,477	8,040	1,563
2) 賃借料(事務所+駐車場)	866	1,164	298
3) 旅費交通費(出張費)	1,782	1,125	-657
4) 通信運搬費(電話代、郵便代)	54	36	-18
5) 消耗品費(事務用品他)	233	120	-113
6) 会議費	20	100	80
7) 使用料	0	60	60
8) 租税公課(固定資産税、印紙代)	54	60	6
9) 手数料	104	60	-44
10) 委託費	133	3,000	2,867
11) 報償費	0	0	0
※諸会費	0	0	0
※雑費	41	1,000	959
小計	9,764	14,765	5,001
8 総収入	44,390	33,964	-10,426
9 総支出	29,063	33,900	4,837
10 税引前当期純利益	15,327	64	-15,263
11 法人税、住民税及び事業税	0	0	0
12 当期純利益	15,327	64	-15,263
13 利益剰余金	25,821	25,885	64
※協賛会員数			
Platinum Sponsor (50万円)	12	12	0
Gold Sponsor (20万円)	19	22	3
Silver Sponsor (10万円)	41	50	9

星 暁雄様(ほし あきお)様 プロフィール

IT ジャーナリスト。日経 BP 社で『日経エレクトロニクス』記者、オンラインマガジン『日経 Java レビュー』編集長などの経験を積み、2006 年に独立、インターネットサービス開発を経験。現在はフリーランス IT ジャーナリストとして活動。半導体、プログラミング言語、オペレーティングシステム、エンタープライズ IT、インターネットサービス、スマートデバイスなど、幅広い分野の取材執筆経験を持つ。イノベーティブなソフトウェア分野全般に関心を持つ。最近では現実世界のモノとソフトウェアを結ぶ技術に特に注目している。

IT ジャーナリスト星暁雄の“情報論”ノート

<http://hoshi.air-nifty.com/diary/2010/04/job-history.html>